

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人なので1日2回看護師が、毎週水曜日は医師が往診に来てくれている。また24時間体制なので、夜間に体調を崩される方や日曜日に体調を崩される方がいた場合でも、必要な検査を病院で行えるなどスムーズに対応してもらえるため、入居者様やご家族も安心して過ごして頂ける環境が整っていると感じている。また、現在コロナの影響で感染対策に力を入れており、玄関にはオゾン発生装置を、事務所と両フロアには空気清浄機と加湿器を設置し、感染対策の勉強会も実施する等、その都度必要な対策を医師も含めて法人全体で一丸となって取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=2276600422-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 29 日		

医療法人の管理のもと、医師・看護師との連携した体制が整えられているため、利用者・家族だけでなく、職員も安心して利用者への対応にあたる事ができる。法人理念に基づいた年度目標・月間目標を定め、目標の共有を図るとともに、職員は各委員会担当として、防災訓練・身体拘束・感染症・接遇等の対応や研修会等について、積極的に関わる体制が整えられている。日々の利用者との関わりでは、日報やケース記録への記録だけでなく、「1か月評価」「半月総合評価」の仕組みにより、介護計画作成に職員の意見を反映できる仕組みがある。コロナ禍の中、外出・面会を制限している状況ではあるが、事業所前の「陽だまり公園」や周辺の散歩、近隣住民の野菜の差入れ、草刈り参加、家族との窓越し面会や写真付きのお手紙送付など、家族・地域との関係性が継続できるように工夫した対応を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には必ず理念の説明を行っている。また、年に1回は職員会議で確認を行っている。	理念に沿った事業所の年度目標を作り、年度目標に基づいたフロアの月間目標を定め、職員会議で確認をしている。目標・実行・評価・改善の仕組み(PDCAサイクル)を整え、理念に基づいた支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りに参加した。他の行事に関しては今年はコロナの影響で中止となっているため関わっていない。	事業所前の「陽だまり公園」や事業所周辺の散歩などで、地域住民との交流がある。コロナ禍の状況の中、地域行事への参加交流は制限しているが、野菜の差し入れを戴いたり、草刈り参加など、地域住民との関わりの継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で様々な行事が行われていないため、地域の方との関わりも出来ていないが、待機者のご家族に関しては、ご自宅で生活されている時の対応方法や介助方法の工夫などを話し合う事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナの影響で職員のみで運営推進会議を実施し、その結果を皆様にお伝えしている状況なので、報告は出来ているが話し合いは出来ていない。	運営推進会議は、市・地域包括支援センター職員、民生委員、当番家族へ年間計画を提示して2か月に1回開催し、意見交換を図っている。現在はコロナ禍の中、書面にて報告を行い、意見の収集に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナのため、様々な会議が中止となっているため、特に話し合いなどはされていない。しかし、コロナ対策についての情報は定期的にメールで届くため、確認は行っている。	市職員とはメール・電話等にて常に連絡の取れる関係である。現在、会議は中止の状況だが、平時には、市立病院「語ろう会」や市主催の「事業所連絡会」に参加し、行政や他事業所との情報共有や意見交換を行う関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を行っている。また、職員が入社した時にも必ず説明を行い把握してもらえよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議開催時に身体拘束適正化委員会を開き、事業所での状況と対応について話し合いを行っている。勉強会の中で年2回の研修を定め、資料確認と職員同士の意見交換を行い、やむを得ず身体拘束を行う際の対応や身体拘束をしない支援の実践に努めている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて毎回勉強会を行っているため、年に2回学ぶ機会を設けている。また、職員の入社時にも身体拘束と合わせて必ず説明を行い把握してもらえるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行っている。現在この制度を利用されている方が1名いらっしゃるため、注意点なども併せて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みに来て頂いた時と契約締結時には直接会って説明を行っている。また、改定時には出来るだけ分かりやすい書類を作成し郵送している。その後、面会時には直接説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでもご意見やご要望を聞けるよう対応している。現在はコロナの影響で面会を制限させて頂いているので、なかなかご意見などを頂く機会も少ない。	平時には運営推進会議への参加があるが、現在は写真付きのお便りや議事録等を郵送し、状況報告と情報共有を図っている。コロナ禍の中、面会制限をしているが、窓越し面会等、面会方法の工夫を模索している。	コロナ禍による面会制限により家族との意見交換の機会が減っている状況の中で、家族からの要望や意見の聴き取りの手段として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で係や委員会の報告をする際には、担当者が考えた意見を順番に報告していく機会を設け、話し合いがしやすくなるよう工夫している。	8委員会を定め、職員は担当委員として職員会議等で報告を行い、職員全員が積極的な関わりをもつことができる。法人及び管理者は、年1回個人面談を行い、職員からの意見を聴き取り、年間目標の構築や委員会活動に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時短希望の方や、休みの曜日指定、姉妹で出勤日や時間を合わせて調整するなど、個々に合わせて対応している。年に1回の昇給では、個々の状況に合わせて給与水準を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの影響で施設内の勉強会も集まって行える月が少なくなっている。集まらない時や、法人の勉強会に関しては、資料を配布し個々で学ぶ機会を設けている。 外部研修もコロナの影響で中止中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナの影響で中止している事が多いため、勉強会などで交流を図ることは出来ていないが、電話での連絡などは今まで通り行えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のためご本人に聞いても伝えられないことが多いため、ご家族からご本人の様子をお伺いして対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お伺いした内容についての対応策などを具体的に伝える事で、施設に入居されてからのご本人の様子をご家族がイメージしやすいように工夫している。また、教えて頂いた内容と今後の対応に関しては会議で全員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難となり、病院や他施設の相談員さんから紹介されて入居される方が多いため、他のサービス利用は考えていないご家族がほとんど。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅での自分の日課があれば、それを継続して行えるよう工夫している。また、1人でやるのではなく、なるべく他入居者様とも一緒に行えるよう工夫し、関わりを増やせるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナの影響で面会を瀬減させて頂いているため、直接関わる事は出来ていないが、日々の様子が分かるように2か月に1回、写真付きのお手紙と文章のみのお手紙を送り、状況把握をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナの影響で馴染みの場所への外出や面会が出来ていない。	コロナ禍の中、外出制限により馴染みの場所への外出はできないが、入居年数の長い利用者にとっては、事業所での暮らしぶりや、他の利用者や職員との関わりが馴染みの関係となるよう、支援に努めている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地区の方の入居が増えているため、入居者同士でお話をされることも増えている。また、なるべく1人で過ごす事のないよう、常に声をかけながらみんなで過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りまでさせて頂くことがほとんどなので、退居されてからご本人に会うことは出来ないが、亡くなられてからのご家族様の心のケアなどはお話できる機会があれば努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前に比べ、医療依存度の低い方が多くなってきたため、ご自分の考えや思いを伝えて頂けるようになってる。1つ1つその時出来る事を一緒にやっていくよう心掛けている。	入居時には、利用者家族の意向を聴き取り、「入居前情報」「発症経過シート」を作成して、職員で情報を共有している。入居後は、利用者の様子や家族への電話で聴き取りを行い、都度、思いや意向の把握を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るだけ細かくご本人様をご家族から伺い入居前情報を作成し、全職員に把握してもらうよう徹底している。入居後に変更がある場合にはその都度変更したものを申し送りで伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートを作成し、全職員が把握できるよう徹底している。また、定期的にADLのチェックや長谷川式なども実施し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回プランの評価を行い、ご本人の状態に変化がある場合にはご家族や医師、看護師などと相談しながら新しいプランを作成している。	日報やケース記録を記入し、日々の情報共有を図るとともに、担当職員は、利用者の意向や具体的課題について「1か月評価」「半月総合評価」を行い、介護計画作成に反映させている。法人看護師が1日2回訪問し、常に医師・看護師との情報共有ができる体制が整えられている。	介護計画作成に当たり、「1か月評価」等により職員からの意見を反映しているが、更なる職員意見抽出の仕組みとして、ケース記録等に「長期・短期目標を明示し、目標に基づいた職員の気付きを記入できる欄」のある様式作成の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはケース記録だけでなく、フロアノートを作成し、全職員が変更内容を確認しやすいよう努めている。また、プランに関しては、変更の必要がある場合にはメモを入れるようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナの影響で様々な事が制限されており、実施できていない。 しかし、施設内で出来る事に関してはなるべくご本人の意向に沿うよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で様々な事が制限されているため、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人なので、内科に関しては主治医を移して頂いている。その他の病院に関しては、ご家族の協力のもと継続して受診できるよう対応している。	週1回医師の往診、1日2回看護師訪問、24時間オンコール体制があり、管理情報を共有して、利用者の体調管理の体制が整えられている。精神科・泌尿器科など他科受診は、家族の協力を得ながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回看護師が往診に来てくれているため、その日のうちに相談できる環境が整っている。また、24h体制なので、日曜日や夜間でも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換に関しては、医療法人なので母体が必要な資料を作成してくれているため、スムーズに行っている。退院時にはご家族と一緒に病院の退院時のムンテラにも参加させて頂き、安心して戻ってこられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明させて頂いているが、実際ご本人が終末期を迎えた時にも施設長からご家族に説明させて頂いている。また、必要に応じて往診の看護師や医師からも説明をさせて頂いている。	終末期の事業所の対応について、入居時に説明し同意を得ている。重度化した際には、協力医とともに再度家族に説明し、対応を確認している。緊急時は、24時間オンコールにより、常に医師・看護師に相談できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回勉強会を行い、全職員に把握してもらっている。また、入社時にも説明を行い把握してもらえよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回の勉強会と年に数回の訓練を実施している。	地震・水害・火災・夜間想定 of 訓練と勉強会を実施している。防災担当職員により、実際に夜間招集の訓練(緊急連絡)を行い、マニュアルの検証を実践している。備蓄庫を整備し、3日から1週間分の水・米・おかずの備蓄を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症なので、その時によってご本人の気分も違うため、いつも同じ声掛けでは気分を害してしまう可能性があることから、その都度ご本人の気分に合わせて声掛けの仕方を工夫している。	個人情報保護やプライバシー尊重については、委員会を設置し、定期的な職員研修を行っている。接遇については、管理者・リーダーが都度注意するほか、朝夕礼や職員会議等でも取り上げ、職員全員が配慮ある声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけを工夫したり、TVを見ながら話題作りをしたりと、ご本人が何かに興味を持ってもらえるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて日々の日課を決めずに対応している。 普段の何気ない会話の中でやりたいことが見つかったら、職員と一緒にやりたいと仰る方がいたら一緒に楽しめる環境を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在はコロナの影響で外出が出来ていないのでご家族が持って来て下さった洋服などでご本人の好みを聞きながら一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人に給食センターがあるため、味や硬さなど希望がある場合には細かい事でも伝えて調整してもらっている。	昼夜のおかずは、法人の給食センターによる栄養面に配慮された食事が提供されている。朝食・ご飯・みそ汁は職員が手作りし、利用者とともに食事をしながら好みを聴き取り、味や硬さの調整やおやつメニュー作りに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量を把握している。摂取出来ていても栄養が足りない方はエンシュアを食べてもらうようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回訪問歯科が来てくれており、入居者様の口腔状態について気になる方がいらっしやる場合にはその都度ケア方法をご指導頂いている。 施設としては、毎食歯磨きをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄状況を把握し、トイレ誘導のタイミングや、自立に向けてのケアを心がけている。	排泄チェック表にて、個々の24時間の排泄状況を記録している。利用者の様子の観察や声掛けのタイミングを把握し、夜間は安全面からオムツ利用者もいるが、日中はトイレ誘導を心掛け、自立に向けた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつの種類を工夫したり、水分を多く摂ってもらうようにしている。また、廊下を歩いてもらうことで少しでも運動してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	医療処置が必要な方は往診の看護師の都合で午前中に入浴して頂いているが、その他の方はなるべく午後に入浴して頂いている。	週3～4回(1日おき)を目途に午後入浴を支援している。シャワー浴や午前中入浴実施など、利用者の状態にあわせて対応している。入浴拒否の方にも、入浴日や時間を変更しながら、入浴してもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	あえて起床時間や入床時間を決めずご本人の意思を尊重するよう心掛けている。日中はご本人の体調に合わせて休憩時間を設けるなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度フロアノートに記載し、全職員が把握できるよう努めている。 また、気をつけなければならない薬に関しては申し送りの際にも口頭で送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナの影響で色々な制限があり対応出来る事は少ないが、感染対策をしてドライブに出かけたり、食べたいものを聞いておやつに提供出来るよう工夫している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で色々な事に制限があるため、対応出来ていない。	事業所前の公園「陽だまり」や周辺の散歩を行い、外気浴を兼ねた外出を支援している。コロナ禍の中、外出制限している状況だが、平時には、ドライブしながら花見や外食へ出掛けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名は自分でお金を所持しているが、使える状態ではない。また、施設でご家族からお預かりしているお小遣いも、コロナの影響で買い物には出かけられていないので使用できず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より、電話をかけてほしいと訴えある時には職員がかけて、繋がったら対応を替わるようにしている。手紙も、書けるようであれば届き次第お返事を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在コロナの影響で常に換気が必要なため、室温を一定に保つのに苦労している。フロアの飾りに関してはその季節に合った飾りを考えて一緒に作っている。	畳のある和室や広い廊下があり、大きなソファを置いて、利用者がそれぞれ好きな場所でゆったりと過ごすことができる。共有空間には季節ごとに手作り作品を飾り、四季を感じる工夫をしている。感染症対策としてオゾン発生装置や空気清浄機と加湿器を設置し、こまめに消毒を行い、清潔な空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナの影響もあり、出来る限りフロア間の往来はしないよう心掛けているが、ご本人が行きたいと訴える時には対策をとったうえで行き来できるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけご本人の馴染みの物を持って来て頂くようお伝えしている。不安になった時や1人になりたい時には居室に戻り安心して頂けるような空間造りを心がけている。	ベッド・エアコン・押し入れ・レースのカーテンを整え、利用者の馴染みの家具やテレビを持ち込み、利用者好みの居室づくりを支援している。毎日午前中に換気と掃除を、利用者とともにやっている。家族の協力のもと、衣替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように廊下を歩いても分かるような場所に紙を貼って、職員に聞かなくてもスムーズに生活できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人なので1日2回看護師が、毎週水曜日は医師が往診に来てくれている。
 また24時間体制なので、夜間に体調を崩される方や日曜日に体調を崩される方がいた場合でも、必要な検査を病院で行えるなどスムーズに対応してもらえるため、入居者様やご家族も安心して過ごして頂ける環境が整っていると感じている。
 また、現在コロナの影響で感染対策に力を入れており、玄関にはオゾン発生装置を、事務所と両フロアには空気清浄機と加湿器を設置し、感染対策の勉強会も実施する等、その都度必要な対策を医師も含めて法人全体で一丸となって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には必ず理念の説明を行っている。 また、年に1回は職員会議で確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているため、草刈りに参加した。 他の行事に関しては今年はコロナの影響で中止となっているため関わっていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で様々な行事が行われていないため、地域の方との関わりも出来ていないが、待機者のご家族に関しては、ご自宅で生活されている時の対応方法や介助方法の工夫などを話し合う事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナの影響で職員のみで運営推進会議を実施し、その結果を皆様にお伝えしている状況なので、報告は出来ているが話し合いは出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナのため、様々な会議が中止となっているため、特に話し合いなどはされていない。 しかし、コロナ対策についての情報は定期的にメールで届くため、確認は行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を行っている。 また、職員が入社した時にも必ず説明を行い把握してもらえるよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて毎回勉強会を行っているため、年に2回学ぶ機会を設けている。また、職員の入社時にも身体拘束と合わせて必ず説明を行い把握してもらえよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行っている。現在この制度を利用されている方が1名いらっしゃるため、注意点なども併せて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みに来て頂いた時と契約締結時には直接会って説明を行っている。また、改定時には出来るだけ分かりやすい書類を作成し郵送している。その後、面会時には直接説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでもご意見やご要望を聞けるよう対応している。現在はコロナの影響で面会を制限させて頂いているので、なかなかご意見などを頂く機会も少ない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で係や委員会の報告をする際には、担当者が考えた意見を順番に報告していく機会を設け、話し合いがしやすくなるよう工夫している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時短希望の方や、休みの曜日指定、姉妹で出勤日や時間を合わせて調整するなど、個々に合わせて対応している。年に1回の昇給では、個々の状況に合わせて給与水準を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの影響で施設内の勉強会も集まって行える月が少なくなっている。集まらない時や、法人の勉強会に関しては、資料を配布し個々で学ぶ機会を設けている。外部研修もコロナの影響で中止中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナの影響で中止している事が多いため、勉強会などで交流を図ることは出来ていないが、電話での連絡などは今まで通り行えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のためご本人に聞いても伝えられないことが多いため、ご家族からご本人の様子をお伺いして対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お伺いした内容についての対応策などを具体的に伝える事で、施設に入居されてからのご本人の様子をご家族がイメージしやすいように工夫している。また、教えて頂いた内容と今後の対応に関しては会議で全員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難となり、病院や他施設の相談員さんから紹介されて入居される方が多いため、他のサービス利用は考えていないご家族がほとんど。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅での自分の日課があれば、それを継続して行えるよう工夫している。また、1人でやるのではなく、なるべく他入居者様とも一緒に行えるよう工夫し、関わりを増やせるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナの影響で面会を瀬減させて頂いているため、直接関わる事は出来ていないが、日々の様子が分かるように2か月に1回、写真付きのお手紙と文章のみのお手紙を送り、状況把握をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナの影響で馴染みの場所への外出や面会が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地区の方の入居が増えているため、入居者同士でお話をされることも増えている。また、なるべく1人で過ごす事のないよう、常に声をかけながらみんなで過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りまでさせて頂くことがほとんどなので、退居されてからご本人に会うことは出来ないが、亡くなられてからのご家族様の心のケアなどはお話できる機会があれば努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前に比べ、医療依存度の低い方が多くなってきたため、ご自分の考えや思いを伝えて頂けるようになってる。1つ1つその時出来る事を一緒にやっていくよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るだけ細かくご本人様をご家族から伺い入居前情報を作成し、全職員に把握してもらうよう徹底している。入居後に変更がある場合にはその都度変更したものを申し送りで伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートを作成し、全職員が把握できるよう徹底している。また、定期的にADLのチェックや長谷川式なども実施し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回プランの評価を行い、ご本人の状態に変化がある場合にはご家族や医師、看護師などと相談しながら新しいプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはケース記録だけでなく、フロアノートを作成し、全職員が変更内容を確認しやすいよう努めている。また、プランに関しては、変更の必要がある場合にはメモを入れるようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナの影響で様々な事が制限されており、実施できていない。 しかし、施設内で出来る事に関してはなるべくご本人の意向に沿うよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で様々な事が制限されているため、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人なので、内科に関しては主治医を移して頂いている。その他の病院に関しては、ご家族の協力のもと継続して受診できるよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回看護師が往診に来てくれているため、その日のうちに相談できる環境が整っている。また、24h体制なので、日曜日や夜間でも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換に関しては、医療法人なので母体が必要な資料を作成してくれているため、スムーズに行えている。退院時にはご家族と一緒に病院の退院時のムンテラにも参加させて頂き、安心して戻ってこられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明させて頂いているが、実際ご本人が終末期を迎えた時にも施設長からご家族に説明させて頂いている。また、必要に応じて往診の看護師や医師からも説明をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回勉強会を行い、全職員に把握してもらっている。また、入社時にも説明を行い把握してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回の勉強会と年に数回の訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症なので、その時によってご本人の気分も違うため、いつも同じ声掛けでは気分を害してしまう可能性があることから、その都度ご本人の気分に合わせて声掛けの工夫を工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけを工夫したり、TVを見ながら話題作りをしたりと、ご本人が何かに興味を持ってもらえるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて日々の日課を決めずに対応している。 普段の何気ない会話の中でやりたいことが見つかったら、職員と一緒にやりたいと仰る方がいたら一緒に楽しめる環境を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在はコロナの影響で外出が出来ていないのでご家族が持って来て下さった洋服などでご本人の好みを聞きながら一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人に給食センターがあるため、味や硬さなど希望がある場合には細かい事でも伝えて調整してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量を把握している。摂取出来ていても栄養が足りない方はエンシュアを食べてもらうようにしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回訪問歯科が来てくれており、入居者様の口腔状態について気になる方がいらっしゃる場合にはその都度ケア方法をご指導頂いている。 施設としては、毎食歯磨きをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄状況を把握し、トイレ誘導のタイミングや、自立に向けてのケアを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつの種類を工夫したり、水分を多く摂ってもらうようにしている。また、廊下を歩いてもらうことで少しでも運動してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	医療処置が必要な方は往診の看護師の都合で午前中に入浴して頂いているが、その他の方はなるべく午後に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	あえて起床時間や入床時間を決めずご本人の意思を尊重するよう心掛けている。日中はご本人の体調に合わせて休憩時間を設けるなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度フロアノートに記載し、全職員が把握できるよう努めている。 また、気をつけなければならない薬に関しては申し送りの際にも口頭で送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナの影響で色々な制限があり対応出来る事は少ないが、感染対策をしてドライブに出かけたり、食べたいものを聞いておやつに提供出来るよう工夫している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で色々な事に制限があるため、対応出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名は自分でお金を所持しているが、使える状態ではない。また、施設でご家族からお預かりしているお小遣いも、コロナの影響で買い物には出かけられていないので使用できず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より、電話をかけてほしいと訴えある時には職員がかけて、繋がったら対応を替わるようにしている。手紙も、書けるようであれば届き次第お返事を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在コロナの影響で常に換気が必要なため、室温を一定に保つのに苦労している。フロアの飾りに関してはその季節に合った飾りを考えて一緒に作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナの影響もあり、出来る限りフロア間の往来はしないよう心掛けているが、ご本人が行きたいと訴える時には対策をとったうえで行き来できるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけご本人の馴染みの物を持って来て頂くようお伝えしている。不安になった時や1人になりたい時には居室に戻り安心して頂けるような空間造りを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように廊下を歩いても分かるような場所に紙を貼って、職員に聞かなくてもスムーズに生活できるよう配慮している。		